

令和6年度 第1回 静岡市立学校給食センター運営協議会 会議録

- 1 日 時 令和7年3月7日（金） 午前10時00分から午前11時30分まで
- 2 会 場 中吉田学校給食センター（駿河区中吉田 7-67）
- 3 出席者 （委 員）
桑野稔子委員、望月裕子委員、坂井美文委員、鈴木たずこ委員、
杉本智恵子委員、内山健委員 （9名中6名出席）
（事務局）
中野学校給食課長
学校給食課職員（片山、原田、海野、中山ほか各学校給食センター所長）
- 4 傍聴人 な し
- 5 会議内容
報告事項等
 - ①新規委員照会
 - ②中吉田学校給食センターの紹介
 - ③学校給食課事業報告（令和5年度決算報告、令和6年度実施事業報告）
 - ④学校給食課のウェブサイトについて
 - ⑤質疑応答

議題「今後の学校給食センター整備について」（学校給食課 片山より説明）

今後の学校給食センター整備の方向性について、資料3を用いて説明

各委員からのご意見

内山委員

現在の勤務校では藁科学校給食センターからの配食を受けているが、清水の方もセンター化していくというのはいろんな事情があるので異論はない。

清水区の小学校でも勤務したことがあるが、自校給食では顔が見える関係ということもあり、今では考えられないが給食を残すことを調理員が許してくれず、子どもたちが泣きながら給食を食べていた時代もあった。食べ物を大事にするという意味で、“食べること”を大切にしていたためである。一方、センター配食校では、下膳の時間になると躊躇なく食缶

に食べ残しを戻して、すごくショックを受けた経験がある。これでいいのかな？と疑問を持ち、同僚の教員に聞いたところ「センター給食は食べさせることは求められていない、時間内にトラックに積み込むことの方が大事」と言われびっくりした。そこから自分のクラスでは1年かけて、大事な給食で、栄養も考えられて作られた給食だから一口でも食べよう、みんなで食缶を空にしよう、という取組みを実施した。

食育という観点で考えると“作った人の顔が見える”というのはすごく大事ななと思っている。学校側の取組みも大事だし、頑張らなくてはいけないと思っている。現在配食を受けている蕨科学校給食センターには本校（中蕨科小学校）在籍の栄養士もあり、今年は結構顔を出してくれていて、子どもたちと給食を食べたり残食に対する取組みをしてくれている。これによって子どもたちには“給食を作ってくれている給食センターから先生が来てくれている”という意識があり、かなり残食が減った。やはり顔を見ながらやっていくというのは大事ななと思っている。（予定しているセンターは）一万という単位の食数だと難しいのはわかるが、できるだけ“作っている人の顔が見える”食育ができるようになるといいなと思う。

望月委員

民間所有資産の活用とあるが、運営は市ではなくて民間の方が主導権を握るということになるかなと思う。そうなると問題が発生してくるのではないかな。福祉施設等の民間は（調理の事業をすることで）儲けを得る。そこで学校給食の衛生基準並みに厳しくしてしまうのは大変だと思う。学校給食はそもそも、子どもたちの成長を安全に支えるものであるから、今の（衛生）基準を緩めるのはあってはならないと思う。

また、自校式は顔が見える関係なので、学生を実習に送り出すと児童が調理場に見に来てくれると聞いている。自校式を少しでも長く残す方向も考えてもいいのではないかな。

坂井委員

②の従前の考え方にとらわれない検討というのは考えとしてはいいと思う。給食センターだけではなくて、いろんな企業にできる部分を外部委託するのは、わたしたち薬局の方でも今後進んでいくのではと感じている。給食センターのことだが、教育局だけではなく、様々な部署とプロジェクトチームを組んで検討していくのはとてもいい考えだと思う。

鈴木委員

センター整備についてすごく考えていることがよくわかった。学校給食調理に関してはわたしたちが思っている以上に気を配って作られているのはありがたいなと思っている。自身が有機（野菜）の取り扱いをしているため、学校給食には非常に関心がある。

その上で、子どもが少なくなっているのは承知しているが、新しくセンターを作ってもさらに子どもが減っていったときに、その余力は高齢者やほかのところに配送していく。そう

すると配送に係る経費が発生するし、そのセンターも老朽化が進んでいくのでメンテナンスに費用がかかる。でも施設の規模が大きいから小回りは利かない。そうすると自校式の小回り利きやすさは見捨てるべきではないと感じた。

また、民間企業の公共事業の参入については、お金を中心に考えられてしまうのではないかと。(民間企業は利益を生み出さなければいけないので) 企業の都合によって本当に大事なところができるのかなという心配がある。信用という部分で、民間だから良い、ダメとかは言い切れないが、そのあたりのオープンにしてほしい。

お金がかかる話なので、新たな施設を建ててメンテナンスしていくよりも、今あるもの(自校給食の調理場)を活用していくというのは賛成。

最後に、もともとは「みどりの食料システム」はSDGsなどが発端になっていると思うが、これに囚われすぎていないか。その方向に全員で向かっていくのは本当に正しいのか。というのも、今回の説明の中に“子どもたちのために”という視点が見受けられなかった。“自然のために”というのはもちろん賛成だし、自身もそのために活動しているが、“自然のために”やって、結果“子どもたちのために”もなるよね、というのを大人が共有しないと、一体何のためにやるのか。お金がないからこうしなきゃ、お金がかかるからこうしなきゃ、というのに子どもたちが翻弄されてしまうのではないかと心配になる。まず初めに子どもありきで考えて、その他のところをどう整えていくのか、という考え方をしなくていいのかという素朴な疑問がある。このプロジェクトチームにその視点で考えてくれるメンバーがいると安心できると思う。

杉本委員

新しいセンターを作るのであれば、防災の拠点として食料品の備蓄ができるようになればいいと思う。学校給食費も公会計化するので、そういう食料品の買い方もできるのではないかと。給食の食材をローリングストックして、新しい施設であれば頑丈に造られ(震災等で)施設がつぶれることはないと思うので、食料品を備蓄しておくことも可能だと思う。缶詰とかある程度の期間持つので、年に一回防災の日に給食の献立に取り入れるとかなければ、防災に気を配れるようなものを検討の余地があれば入れてほしいと思う。

桑野会長

新施設を作ったとしても 180 日しか提供しない、昼しか稼働しないという点で費用対効果の点で従来の考え方にとらわれない検討の必要性が出てきたということですね。学校給食提供以外の役割として、高齢者施設やこども園など、また、不登校の子どもたちの栄養状態が悪いことから、活用するのは良いことだと思う。ただ、学校給食の衛生管理基準は緩めてはいけない。子どもたちの安全安心という観点から、ここは譲れない。プラスアルファすることはあっても、基準を下げることはあってはならない。ご検討のほどよろしくお願いします。

市から（学校給食課 中野課長）

各委員の自校式給食に対する思いは受け止めるが、維持をしていくのが難しいことも事実である。施設の維持や調理員の確保の困難さもある。持続可能であるかという難しい側面がある。ただ、“顔の見える関係”という思いをどのように反映していくかは、しっかりと受け止めなくてはならないと思う。

本日ご覧いただいている資料の「従前の考え方にとらわれない検討の必要性」は、あくまでも、いろいろと考えていく“べき”であるということ。先ほどの衛生管理基準も、“それありき”で考えるのではなくて、検証すべきところは検証するべきではないか、という趣旨なので、単純に衛生管理基準を緩める、という結論ありきのことではない。

なぜ学校給食が安全かという、保護者の意識が高まっているからとも言える。衛生管理基準が保たれているから学校給食は安全だと言えらると思う。しかしながら、技術革新等で（衛生管理基準を）担保できる考え方はできないか検討することは必要でないかということ。それで代替できれば、人の手をかけなくても安全性を十分担保できるということであれば、それは検討していく材料になるのではということ。全部が全部、従前のやり方ありきで考えるのではなくて、すべてをフラットに考えていく。民間の事業者も製造物責任ということで、今は何かあったらネット上で叩かれる時代でもあり、かなり神経を使っている。民間事業者の見習うべきところは見習いつつも、学校給食の本質の部分は先生方がおっしゃるとおりだと思うので、大事な部分は大切にしながら、時代に応じて検討していきたい。

防災については、やれるかどうかはわからないが、ご覧のとおり学校給食センターにはこれだけ大きな設備があり、電源も大きなものを使っている。なので、仮に新センターを構想するのであれば、非常電力をそこから供給できるようにならないかなど、単なる給食センターとしての役割だけでなく、そういった付加価値を検討していく。他都市の事例でも給食センターを建てるには、財政事情はどこも厳しいので、何かを付加してくとなると、防災機能を付加したり、いろいろな施設に配食したりしている。広い視野で検討を進めていく。

引き続きプロジェクトチームでより広い目線で、有機野菜の取り扱いや、市場での流通システムも併せて食と農のシステムとして検討していく。また、スピード感を持って事業を進めていかなければならないので、次の協議会ではさらに進んだ説明をできればと思っている。

桑野会長

ありがとうございました。

以上で本日の議事を終了します。

会議録署名人

会 長